

志教育の視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
--------	----------------------

活動名	【職業選択】 インターンシップ
教科・領域等	総合的な探究の時間
活動学年等	2学年（商業科）
ねらい	(1) 人間としての在り方・生き方について生徒が自ら考え、自覚を深めるとともに自己実現を図る資質や能力を育てる。 (2) 職場における実際的な知識や技術・技能に触れることにより、学習意欲を喚起し、主体的な職業選択能力や高い職業意識を育成する。 (3) 勤労の尊さや喜び、楽しさや厳しさを学び、社会における自己の役割や責任・自覚を促す。 (4) 総合的な探究の時間で身につけたことを他の教科でも活かし、自己理解を深め自己の能力を高める。

【実践内容】

志教育の視点

勤労の尊さや喜び、楽しさや厳しさを学び、社会における自己の役割や責任・自覚を促す。

活動内容

- 1 **事前指導を行う。**
 自己理解を行い、職業適性や将来の目標を考える。
 講話を聞き、意欲や目標を持つだけでなく、働くとは何かを考える機会を持ち、応対マナー等について学ぶ。
- 2 **実習する。**
 各事業所にて実習する。（3日程度）
 実習を通じて、勤労観や職業観を育成し、将来の職業選択の一助とする。
- 3 **活動記録をまとめる。**
 お礼状の作成や、インターンシップを通じて学んだことをまとめ、1年生に向けて12月に発表を行うとともに、デュアルシステム学習報告会で発表する。（1月）
 1年間の総探学習を通じて、自己を評価し、今後どのような進路へ進んで行くかを考える。

自分・未来をみつめ志に高める手立て

事前指導では、外部講師の活用により、社会人としての常識を身につけさせる。また、自己理解やビジネスマナーの実践を通して、人とのより良い関わり方について考えさせる。事後指導では、全員が12月に1年生に向けて発表し、また、1月のデュアルシステム学習報告会を経て、職業適性や将来設計について考えさせる機会を設定している。



志教育の視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
--------	----------------------

活動名	【職業教育】栗原版デュアルシステム
教科・領域等	商業科・科目「総合実践」
活動学年等	3学年（商業科）
ねらい	企業実習・販売実習・起業家研究の3本柱から構成されており、生徒の職業観や勤労観、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の育成を図り、地域の産業界と連携をすることで将来地域の担い手となる有能な人財の育成をする。 また、地域との連携を深めコミュニケーションを図ることで地域の活性化の一助とする。

【実践内容】

志教育の視点

地域社会に貢献できる人財になるために、地域の産業界と連携しながら諸課題の解決に主体的に取り組み、改善しようとする姿勢を身につける。

活動内容

1 総合実践の取組内容

企業実習 各事業所にて6月～12の間で、全32回の実習を行った。地域とつながりを持つことで、職業についての知識や技能を身につけ、自身の進路達成を目標に実習を経験し、望ましい職業観や勤労観を育成することができた。各事業所での関わりを通して、自分達に何ができるのか自己有用感を高めることができた。

販売実習 一迫町内施設「あやめの里」の店頭や栗原市内に今年度開店したスーパー「アークス」の店頭、地域のイベントでの販売を経験した。生徒が自ら、市場調査から商品の選定、仕入計画、販売計画、広告作成、経理まで行った。班ごとに地域の方々に喜んでもらえる商品を仕入れ、販売することで自ら考え行動する能力と態度を養った。お客様の立場に立った「おもてなしの心」と社会人の立場に立った「地域社会に貢献する意識」を高めることができた。

起業家研究 今年度、「栗原市の観光振興に向けたデジタル観光MAPの作成」と「ふるさと納税返礼品の開発」の2班に分かれ取り組んだ。デジタル観光MAPでは、各地域へ赴き、現地取材や動画作成を行い、Youtubeに投稿（観光MAPにQRコードを貼り付け）し、魅力発信に努めた。ふるさと納税返礼品班では、新たな返礼品「ちょ米ていら」の試作に取り掛かり、試食会では好評を得ることができた。両班ともに地域連携を深め地域活性化に向けた取り組みをすることができた。

2 まとめ・振り返り

地域と関わった経験や学習した成果を振り返り、1月に行われるデュアルシステム学習報告会に向けて、プレゼンテーションを作成し発表を行った。報告会後は、自己を評価し、今後の進路へどう生かしていくか自己理解を深めることができた。

自分・未来をみつめ志に高める手立て

地域と学校が協働する教育活動を通して、地域の魅力を発信・再発見しようと促し、貴重な学びを得ることができている。生徒自身が学んできたことを地域で実践し、貢献できたという成功体験を積み重ねることによって、自己の進路実現を主体的に考えることができている。教科書とは別の生きた教材を活用することで、将来の担い手となる地域の有為な人財の育成を図っている。

